

踏したものか、數に於ては非常に少いが、勞銀の割合に日常生計費が安値にすまされて、多少の貯蓄が出来る場合には、多くはこの方面に費されてしまふ、これもこの人々の日常生活の環境から見ても止むを得ない現象である、只社會並に個人衛生又は社會風紀の上から見ても、輕々に默過する事が出来ない。

第三十一表 嗜好物種別數表

嗜好品別		人員數	百分比
酒	類	四七三	三六、四
煙	草	一一五	八、九
女		九八	七、五
菓子	類	五五	四、二
茶	類	一一	九
食	物	一二	九
不	明	五三六	四一、二
計		一、三〇〇	一〇〇、〇

趣味娛樂の方面は千差萬別であるが、其中でも矢張活動寫眞が最も多く、舊劇物にしても現代物にしても、すべて卑近な活劇物のフィルムを多く好む、其次は新聞雜誌、講談本などの讀物類であるが、新聞は東京夕刊、やまと、萬朝等の順序であり、雜誌は講談俱樂部式のものも多く、講談本は例の貸本屋から借りて来る復讐物俠客物等である、次には浪花節であるが之も俠客物、復讐物等が一番人氣がある、彼等の心情生

活に共鳴する所多いが爲であらう、其他芝居、音樂、歌謡などの中には舊來のものもあるが、中にはオペラ、新派劇、ヴァイオリン等の新しい方面は、特に若い青年勞働者が好み、琵琶、義太夫、俗謡を樂しみ自ら口吟む者も多い、俗謡などでは矢張出生地のローカルカラーを出すもの多く、就中當世流行の八木節、鴨綠江節、安來節等は、一般勞働者階級と等しく非常な勢力を有つて居る。

今序に平素勞働者の口吟する唄節を地方的に系統を辿つて見ると、

- | 種別 | 地方別 |
|-------------|--------------------|
| 一、ハツバ節 | 礦山地帯にて行はるゝもの、 |
| 一、おたか節、土方節、 | 甲信地方より流行せるもの、 |
| 一、海岸節、 | 湘南、三浦半島方面より流行せるもの、 |
| 一、海岸節、あやめ節、 | 房總方面より擴れるもの、 |
| 一、八木節、 | 兩毛地方の盆謡、 |
| 一、おはら節、 | 越中方面より來れるもの、 |
| 一、追分くづし、 | 越後方面より來れるもの、 |
| 一、相馬節、 | 福島方面より來れるもの、 |
| 一、安來節、 | 中國方面より來れるもの、 |

等であつて地方農村の勞働者が、都市に集中して下層階級の生活をなす場合、各自の郷里の地方色を彩る簡

易な俗語は、彼等の趣味生活を左右する事非常に大なるものがある。

其他綱曳女の歌ふ木遣節、浪花節の断片的な節廻しなどもあり、又趣味以上の問題として一種の作業歌の性質を含味する様な場合もある、賭博の如きも調査に表れた計数は少いが、多くの者は之が経験趣味を有し、其日の賃銀を當にして現場で賭けてしまふ者や、歸つて夕食した後、其日の宿料と翌朝の食費とを控除し残額の總てを之に費ひ果してしまふ者が多い、特に大建築場や大工事現場では屹度大賭博が行はれる、腕利きの職人等は多くは之を第一目的として集り來るが故に、工事請負業者等も一の勞力需給政策の立場から、殊更に之を默過したり暗に奨励したりする者さへある、北海道、樺太等へ行く軍夫其他の出稼を希望する者、地方の鑛山、炭坑、水力電氣工事等へ行く一人前の熟練職工や土工等の中にも、夫れが目的なのも相當にある、趣味としての賭博は、嗜好や娛樂等としての酒や性慾と共に、彼等の日常生活の陰慘なる單調味に對して、華やかな色彩を與へると同時に、又其生活の安定をおびやかす者である、更に兒童其他の環境に對して惡影響を與ふる事が多い、深川區富川町の木賃宿部落に於ける小學兒童等は、幼年時代から既に夫を習つて遊戲をすると云ふ、此の部落に於ける小學兒童等の知る賭博としては、東京市靈岸小學校々長橋本熊太郎氏の説によれば、

一、普通の賭博及花合せ

二、綱引賭博 (綱の長短によりて勝負を決す)

三、五目ならべ (五目ならべにより金錢を賭ける)

四、電車賭博 (電車番號の奇偶數を當てる賭博)

五、柿割賭博 (柿の種の數を當て、勝負を決す)

六、人力賭博 (人力車の乗客が男女何れなるかを賭ける事)

(深川區教育會雜誌所載)

等であるが、之を以て見ても、彼等の生活の如何に陰慘にして單調なるかを知る事が出来る。

諸種の高尙な運動娛樂、野外の行樂散步等を望む者も多いが、大都市の下層社會に生活する自由勞働者としては、到底簡易に夫等の満足が得られない、又一轉して政治運動社會運動などを趣味とし、ブローカーを氣取り、ともすれば突飛な演説を試みるが爲に相當な辯才を有し、仲間連中に可成人氣を有つて居る者の尠くない事を注意しなければならぬ、更に趣味嗜好をとりぐに組合せて居る者の中には、酒と煙草、酒と女酒と女と活動寫眞、酒と寄席などと、酒の勢力は非常に強く、煙草、活動寫眞も同斷である、中には酒と女と賭博など、三拍子揃つて好むと云ふ者もある、ともかくすべて趣味嗜好共に、赤裸々な感應生活を満足せしめむとする者なる事は疑のない所である。

第三十二表 趣味娛樂種類數表

活 動 寫 眞	趣 味 娛 樂 物 別	人 員 數	百 分 比
諸 種 讀 物	新 聞、雜 誌、小 說、講 義 本、文 學 物 等、	一六六	一、二八
		一二〇	九、二
		一四三	

芝居	演藝(オペラを含む)	一四四	九、〇
芝居	ヴァイオリン、尺八、其他の音楽、琵琶、義太夫、清元、常盤津、俗謡等、	一一七	六、八
歌謡	見物、遊山、旅行、祭祀縁日、漁獵、講談、落語等、	八八	
賭博	散步、野球、庭球、大弓、相撲等、	三二	
行楽		二五	
寄席		二四	
運將		二〇	
政治、社會運動演説		一六	
其	労働、園藝、書畫、家庭生活勉強、相場、生花、買食等	一〇	
計		四一	
		五九三	四六、一
		一、三〇〇	一〇〇、〇

第三十三表 自由労働者の趣味嗜好及娛樂物表

種別	人員數	種別	人員數
酒	二四四	寄席(浪花節、講談、落語)	六二
活動寫眞	五六	酒と煙草	五二
讀物	三六	酒と女	二九

酒と活動寫眞	二七	芝居	二四
女	二三	煙草	二三
酒と寄席	二三	菓子類	二〇
活動寫眞と讀物	二〇	酒と芝居	一四
酒と賭博	一三	小説	一二
音楽	一二	活動寫眞と浪花節と女	一〇
酒と讀物	一〇	女	一〇
浪花節と女	一〇	芝居と活動寫眞	一〇
活動寫眞と茶	七	酒と菓子	六
酒と女と賭博	六	芝居と浪花節	六
賭博	五	酒と女と煙草	五
浪花節と煙草	五	芝居と讀物	五
文學	四	榮華	四
労働と活動寫眞	四	活動寫眞と菓子	四
琵琶	四	浪花節と煙草	四
菓子と煙草	四	義太夫	三
酒と女と浪花節	三	米、株式の相場	三
植木盆栽	三	棋	三
食道樂	三	活動寫眞と小説	三
酒と煙草と浪花節と活動寫眞	三	酒と芝居と活動寫眞	三
			一四五

酒と讀物と講談
 酒と芝居と煙草
 女と讀物
 女と食道樂
 家庭の圓滿
 菓子と讀物
 旅行
 小供の成長
 義太夫と浪花節
 遊山と讀物
 魚釣
 碁と煙草
 酒と煙草と讀物
 酒と煙草と寄席
 酒と大弓
 酒と煙草と釣
 酒と碁
 酒と遊興
 酒と散步

酒と賭博と寄席
 俗語
 浪花節と琵琶
 芝居と活動と小説
 浪花節と菓子
 菓子と芝居と浪花節
 散歩と讀物
 見せもの
 芝居と小説
 貯蓄
 運動と讀物
 酒と祭禮
 酒と女と讀物
 酒と旅と讀物
 酒と文學
 酒と活動と買食
 酒と女と社會運動
 酒と鼻唄
 酒と女と活動寫眞
 酒と賭博と煙草

酒と政治演説と煙草
 酒と煙草と義太夫
 酒と煙草と菓子
 酒と喧嘩と女
 酒と商法
 酒と自轉車に乗ること
 酒と芝居と寄席
 女と賭博
 女と煙草
 女と食道樂
 女と浪花節と活動
 牛肉と浪花節
 演説
 遊戯
 碁と文學と劍道
 肉鍋
 角力
 晴天と金の入ること
 政治學と社會學
 政治問題

女と漁網
 女と落語
 女と活動と金儲
 女と琵琶
 女とツアキオリン
 女と讀物
 女と芝居
 芝居と義太夫
 煙草と音樂
 芝居と釣
 花見、遊山
 活動と食道樂
 花と茶
 野球
 綠日
 芝居と浪花節と生花
 煙草と寄席と活動
 小説と菓子と活動
 讀物と煙草
 小説と煙草

菓子と小説と芝居と活動
讀物と商法研究
運動
社會主義と政治問題研究
文學と音樂と運動
法律の研究
常盤津
浪花節と煙草
活動と琵琶と俗謡
碁と活動寫眞
旅と花見
遊山と音樂
讀物と音樂と散歩
活動と菓子
俗謡と菓子
角力と菓子
園碁と浪花節
新聞と浪花節
政治と雜誌と演藝
芝居と雜誌

文藝
運動と音樂
活動と賭博
活動と植木
活動と庭園
音樂と讀物
活動と音樂
活動と淺草
芝居と釣
清元
活動と芝居と尺八
碁と讀物
芝居と賭博と寄席
浪花節と花ヤシキと煙草と菓子
仕事する其日々々
辯論と演藝
讀物と散歩
散歩と俗謡
煙草と尺八と菓子
倫理と法律

旅とペンホンと俗謡と活動
テニス
碁と名所見物
音樂と散歩
書碁と演藝
俳句と演藝
讀物と寄席
買食
活動と茶
趣味、嗜好、娛樂共になき者
計

煙草と菓子と活動
語學と活動
活動と浪花節と碁碁
角力と煙草と活動
カハラ
喜劇と食道樂
入浴と讀物
寢る事と食事
寢る事と菓子
不明の者

右表は趣味娛樂嗜好全般に亘りての解答を、人數順に雜然と並列せるものにて、例へば或は酒のみを趣味嗜好とするもの、或は酒と芝居を趣味嗜好とする者など、更に多くの種類の項目を挙げたるものなどがある。

三、信 仰

自由労働者の心的生活と宗教信仰とは如何なる關係にあるか、かゝる高尚な精神問題を統計的にとると云ふ事は、無意義かも知れないが、先づ其大體を推知する點に於て多少の参考ともなりうるであらう、質問の

場合には信仰の對象と云つて個々としては極めて具體的に、しかし努めて廣い範圍に於ての精神狀態を信仰と見た、然るに統計の結果は全數の五五、二パーセントは全然無信仰と云ふのであつた、これは信仰の對象を認めないと云ふにニヒリスチックな立場もあるが、多くは殆ど問題として意識したことがないと云ふ人が多い、即ち下層階級の勞働者の情意生活が、極めて素漠な低級な單調なものと思得る一證左であらう。

其他に一般に佛教と云ひ何々宗と云ふが如きものは、父祖の宗旨又は漠然たる意識を表示したものらしく、確實な信仰對象と見るを得ず其他の場合でも其時の思付きなどを答へたるに過ぎない者が多い、只其中に、眞言、日蓮、眞宗、觀音、不動尊、八幡宮などは、やゝ具體的な信仰對象として、夫々の精神生活を或程度迄レギユレートする者であらう、日蓮宗や、不動尊などの數の多いのは、土地の關係や、刺激の多い祭禮を機縁として、彼等の單純な心的生活には恰好なものがある爲であらう。

基督教を信する者は多くは救世軍月島勞働合宿所や愛隣館などに在宿する者で、年少の苦學生の眞面目な分子なるは一注目し値する、數に於ては勿論佛教徒の方が多のであるが、質は必ずしも速斷の限りでない。

祖先、山嶽、諸祠、偉人など可成低級の信仰狀態にある者は、比較的事實に近い信仰狀態を表白したものである、すべてを否定して自己を尊重し、過激思想を漠然と概念に有し或は心醉するなど、特殊の心的傾向を有する者は數に於ては少いが、多くの他の勞働者に尊敬され重寶がられる點に於て、よくこの社會の思想感情乃至行動をまで支配するものであつて注目し値するのである。

第三十四表 年齢別による自由勞働者の信仰對象 (大正十一年三月末日調査)

信仰對象	年 齢					計	百分比
	一五以下	一六以上二五以下	二六以上三五以下	三六以上四五以下	四五以上		
無信仰	二〇七	二二七	一六七	九六	二六	四一	一七八
一般佛教	一一	一六	二二	一九	七	一	一七五
眞言宗(弘法)	二	五	九	四	二	一	二二
日蓮宗(日蓮)	一〇	一九	一一	一六	四	二	六三
眞宗(親鸞)	五	七	一七	四	二	二	三七
淨土宗	一	三	三	六	一	一	一三
天臺宗	一	一	一	一	一	一	七
觀音様	四	二	五	二	一	一	一四
基督教	一七	一五	二	一	一	一	三五
神道教	一	一	一	一	一	一	六
天理教	一	二	四	三	一	一	一二
神佛	六	七	九	四	二	三	三一
不動尊	二	二	三	二	一	一	九五
八幡宮	一	三	四	一	二	一	一一
大神宮	一	二	四	一	一	一	三八
天皇崇拜	三	一	二	一	一	一	六
計	二五五	二二七	一六七	九六	二六	四一	一七八
百分比	五五、二	五〇、三	三六、七	二一、四	一、五	一、一	一〇〇、〇

四四、八

この信仰状態に對して彼等の不平とする事項を、自由質問によつてなした結果は別紙の通りであるが、不平事項のない者はやはり六〇パーセントとなつて居る、然し年齢の關係を見ると七十六歳以上の者は二人共不平がなく、年齢の高いに比例して數も多く三分の一以上に達するが二十五歳以下になると、殆ど半數位の狀態になるは注目し値すべく、不平事項を有する者に至りては殆ど千態萬様であるが先づ賃銀の低廉、手數料の過重、勞働過重、使傭主等、すべて勞働條件に關する事項の不平が多いのは當然なりと云ふべく、物價問題、生活難の日常生活等に關するもの、住居難木賃宿の暴利を恨むもの等も多く、社會制度の不完全、資本

主義制度の不備、資本家に對する反抗、對官憲及一般社會に對する不平、社會が人夫風情となして輕蔑の眼を向ける事に關する不平など、下層階級の勞働者にも階級意識の自覺を推知すべく、勞働者の無自覺、自己の腑果意なき一身上の不幸等に對し、自嘲的咏嘆的な態度を示せる者も、ドン底階級に生きる人生の悲痛な叫びであらねばならぬ、雨天、惡道鈴、アブレ、手數料などに對する不平は屋外に働く日傭勞働者特有のものとする事が出来る、朝鮮人勞働者の多くは自らが朝鮮人として、外人扱かひされたり蔑視されたりするのが、非常な不平らしく見受けらるゝ、この不平事項を年齢關係から見ると不平なき者は前述の如くであるが、社會制度の缺陷、資本家、官憲、其他時事に關する不平は四十五歳の中年以下の者が、殆ど全部を占め居るに對し、生活難、住居難、家庭の事情、一身上の不遇などをかこつ者は中年以下に多いと云ふ割合は注目すべきである、其他の不平事項はあまり年齢等に關係はない、婦人勞働者は殆ど不平事項のない者ばかりと云つて過言ではない。

年	別	計	百分比
一	不平事項	五—五	
二	生活問題に關するもの	六—五	
三	物價の昂騰	五—四	
四	生活難(貧乏)收入不足	五—六	
五	計	六—五	
六	一五	一〇八	
七	一九	八、三	
八	三五		
九	二七		
一〇	八		
一一	四		
一二	一		
一三	一		
一四	一		
一五	一		
一六	一		
一七	一		
一八	一		
一九	一		
二〇	一		
二一	一		
二二	一		
二三	一		
二四	一		
二五	一		
二六	一		
二七	一		
二八	一		
二九	一		
三〇	一		
三一	一		
三二	一		
三三	一		
三四	一		
三五	一		
三六	一		
三七	一		
三八	一		
三九	一		
四〇	一		
四一	一		
四二	一		
四三	一		
四四	一		
四五	一		
四六	一		
四七	一		
四八	一		
四九	一		
五〇	一		
五一	一		
五二	一		
五三	一		
五四	一		
五五	一		
五六	一		
五七	一		
五八	一		
五九	一		
六〇	一		
六一	一		
六二	一		
六三	一		
六四	一		
六五	一		
六六	一		
六七	一		
六八	一		
六九	一		
七〇	一		
七一	一		
七二	一		
七三	一		
七四	一		
七五	一		
七六	一		
七七	一		
七八	一		
七九	一		
八〇	一		
八一	一		
八二	一		
八三	一		
八四	一		
八五	一		
八六	一		
八七	一		
八八	一		
八九	一		
九〇	一		
九一	一		
九二	一		
九三	一		
九四	一		
九五	一		
九六	一		
九七	一		
九八	一		
九九	一		
一〇〇	一		

住居難(屋主横暴)	二	三	三	二	一	三	五	二	一	(二)
木賃宿(暴利)	三	三	二	一	六	二	一	一	二	(二)
金銭なきこと	三	一	七	一	五	一	一	一	一	(二)
酒の高價	三	六	四	五	三	七	一	三	一	(二)
二、労働問題に關するもの	二	一	二	六	一	一	一	一	一	(二)
賃銀の低廉	二	一	二	六	一	一	一	一	一	(二)
手数料の暴取	七	二	七	二	一	一	一	一	一	(二)
使傭主、親方に對し	四	七	四	七	一	一	一	一	一	(二)
アブレ(日傭失職)	一	三	一	三	一	一	一	一	一	(二)
労働者の無自覺	一	三	一	三	一	一	一	一	一	(二)
過勞すること	一	三	一	三	一	一	一	一	一	(二)
三、社會問題に關し	三	五	一	二	五	一	一	一	一	(二)
社會組織の不完全	一	一	一	一	一	一	一	一	一	(二)
資本主義制度	四	一	一	一	一	一	一	一	一	(二)
對資本家	一	三	一	一	一	一	一	一	一	(二)
社會事業の不振	四	一	一	一	一	一	一	一	一	(二)
對社會主義者	一	三	一	一	一	一	一	一	一	(二)
對官憲	一	三	一	一	一	一	一	一	一	(二)
四、身上に關し	一	七	一	一	一	一	一	一	一	(二)
家庭の事情	一	七	一	一	一	一	一	一	一	(二)

一、身上の不幸	三	一	一	一	一	一	一	一	一	(二)
子供のなきこと	一	一	一	一	一	一	一	一	一	(二)
自己への不平	二	一	一	一	一	一	一	一	一	(二)
不如意	一	一	一	一	一	一	一	一	一	(二)
五、一般社會に對し	二	一	一	一	一	一	一	一	一	(二)
社會全般に對し	二	一	一	一	一	一	一	一	一	(二)
外人扱にさるること	二	一	一	一	一	一	一	一	一	(二)
社會の蔑視	二	一	一	一	一	一	一	一	一	(二)
苦學生の不遇	六	二	四	五	一	一	一	一	一	(二)
六、政治問題に關し	八	六	二	五	一	一	一	一	一	(二)
政治(政黨代議士)	三	八	二	二	一	一	一	一	一	(二)
尊選の實現せざる事	二	三	一	一	一	一	一	一	一	(二)
外交政策に對し	二	二	一	一	一	一	一	一	一	(二)
七、其他に關し	八	二	一	一	一	一	一	一	一	(二)
惡道	一	八	一	一	一	一	一	一	一	(二)
雨	二	一	一	一	一	一	一	一	一	(二)
其他	五	二	一	一	一	一	一	一	一	(二)
八、不平等	一	七	六	二	一	一	一	一	一	(二)
九、不	一	七	六	二	一	一	一	一	一	(二)
計	三〇七	三七〇	三三一	二二一	六三	一六	二一	二一	二一	(二)

五、自由労働者となりし事由

自由労働者となる原因は、其種類に於て維多なばかりでなく、一人々々をとつて見ても其経路の有爲轉變なるは想像する迄もない、被調査者千三百人の解答は瞬間的に與へられたもので、其を委曲に盡すを得なかつたのであるが、集まつた断片零碎の材料を心理的に分解して見ると、

一、積極的原因によりて自ら進んでこの社會に入つたもの、

二、消極的原因により、他動的にこの社會に入つたもの、

と大別するを得べく、自ら進んでやる者にしても、無意識に父祖の仕事であり兄弟の仕事である處から、自然とこの職業に従事するに至つたもの、或は意識的に何か他の目的即ち、苦學成功を目的としたり、貯蓄を目的とし、又は季節的出稼を目的として、自由労働を一時的手段となすものなど可成に多く、更に純粹の目的として獨立自活をなさむが爲とか、農業などをきつてこの業に入るもの、労働神聖の自覺労働問題の研究など、云ふ點から極めて眞面目な態度を持する者も尠くはない、消極的原因から他動的に入つたものは數に於て勿論多い、家計困難、家内不和家庭の不幸等様々の事情から、致方なく一時身を落すものや、生活難、就職難事業失敗、主家解散、等の失意状態から入つたもの、更には酒色に耽り、遊惰に流れた結果、規則的な職業を避けて自由放縱な労働に従事すると云ふ不眞面なもの、知友、誘拐人等の誘惑にかゝつてこの社會に入り、後で氣がついても取りかへしのつかなつたものなど、要するに他動的な原因から入つた

結果は不平不満、自暴自棄の日常生活を送つて居るもの、數は極めて多いと云はねばならぬ。

これを出身地別から考察して見ると(出生地表参照)東京府下出身者の多いのは自明の理であるが埼玉、千葉等の多いのも地理的關係の然らしむる處、新潟、長野、茨城等は農閑期の季節的出稼労働者が割合に多いのであらう、朝鮮人の數も中々輕視すべからざる比率を示して居る、其他の府縣下に至つては距離の關係から見れば、純粹の割合は殆ど大同小異と見る事が出来る

第三十六表 自由労働者出生地府縣別表

府 縣		都 市		郡 部		計		府 縣		都 市		郡 部		計	
東	京	一三八	五七	一九五	長	野	一八	六二	八〇	一〇六	八〇				
大	阪	一五	七	二二	埼	玉	二六	八〇	一〇六	一〇六					
京	都	七	一	八	山	形	六	九	一五						
兵	庫	一一	六	一七	神	奈	二五	三八	六三						
北	海	七	一三	二〇	茨	城	一四	六〇	七四						
栃	木	一一	三四	四五	茨	城	九	一五	二四						
新	潟	一三	七〇	八三	愛	知	八	二〇	二八						
秋	田	八	一三	二二	山	梨	七	一六	二三						
群	馬	一三	三五	四八	靜	岡	一四	二二	三五						
千	葉	二二	六九	九一	鳥	取	一	一〇	一〇						
奈	良	一	一	二											

第三十八表 自由労働従事原因別表 (大正十一年三月調査)

原因大別	人員數	百分比	原因細別	人員數
一、失敗敗落により	四一三	三一、八	事業失敗の結果	二四六
			放蕩墮落の結果	一一一
			父親の失敗により	三
			店員としての失敗により	三
			破産流浪の結果	四
			主家の失敗により	四
			會社員としての失敗又は會社の解散により	四
			學業不良の結果歸國も出來ざる爲め	二
			夫の失敗により	二
			賭博の失敗により	二
			怠惰の結果	二
			天災の爲め失敗して	一
			無意識自然に労働界に入る	一
			親から放逐されて致方なく	二
			上京後思ふ様にならぬ爲に	六
二、貯蓄をなす目的にて	二六	二、〇	同上、	二六
三、失意又は生活不安の爲め	三〇八	二三、七	生活難の爲めに	一六六

失業の結果

就職難の爲めに	三三
就職するに保證人なき爲めに	四五
定職に就き難き事情に在りて	二
上京定職に就く目的にて一時的に	四
病氣の爲め失職して	二六
幼にして父母に死別し自活する爲に	九
夫に死別し獨立自活の爲めに	三
親の行衛不明の爲め浮浪して	一
夫飲酒に耽り家計困難の爲め	二
負債に苦しみて	五
家出せし爲め致方なく	一一
苦學の目的にて従事するもの	九四
苦學上京の目的達せず自暴自棄して	五
苦學の目的にて従事中其儘本業となる	五
親の命故に従事するもの	一
家庭の都合上従事するもの	三四
夫が労働者なる爲に	二
家庭不和の爲め家出して	二一
親兄弟又は主人と口論の爲め家出	七

十一、自暴自棄となりし者	四	〇、三	失戀の結果自暴自棄して 妻に死別せし爲め	一
十二、獨立自活の爲めに	七五	五、八	無學の爲自暴自棄して	二
十三、誘惑せられし者	五	〇四、八		五
十四、不明	一三五	一〇、三		一三五
計	一、三〇〇	一〇〇、〇		

二六三

から見れば所謂地道な眞面目な希望と云へば、階級的には自己反逆的な皮肉な希望であつて、然も空想的な自暴自棄的な希望の中に、却つて彼等の眞面目な階級意識の目覚めを見る事も出来る、例せば、暴力大革命を夢みたり、大政治家、大法律家又は労働大臣を希望するなど、云ふ事は、一見誇張に走るの観はあるが、然し現在の少數労働者の中には、眞面目な信念を以て確言する人があつたと云ふ事を見通し得ない、死に對する様な希望の如きも、一笑に附し去る事の出来ない様な此の社會の陰惨な氣分を觀取せざるを得ない。

年齢との關係から云ふと壯年以上の人々は生活の安定、子女の教養など云ふ地味な希望や、現状維持や、死に對する希望などを抱持し、少壯の人々は突飛的な空想的な向上的な希望を有して居る、そして商業家、大資本家等を希望する者の、數が比較的多いのは皮肉な階級的自殺と云ふべきである、環境又は日常生活等の關係から見ると一定の住居所帯を有する者は皆、生活の安定、子女の教養などを希望して居り、木賃宿や、合宿所等に流浪する獨身者は、突飛な架空的な過激な思想希望を抱いて居る者と見る事が出来る。

第三十九表 年齢別より見たる將來の希望事項

將來の希望條項	年 齡										計	百分比
	15-20	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	61-65		
商業家	75	116	104	50	4	1					350	26.9
子女の教養又は幸福	1	3	37	56	20	2					119	9.2
生活の安定健康等	14	24	25	27	11	5					106	8.2

労働者として向上したき希望	19	29	20	11	1						80	6.2
大資本家大企業家	25	31	9	2							68	5.3
公務員自由業	37	15	3								57	4.4
相當の地位に向上する事	14	19	7	3							43	3.4
妻帯家庭をなす事	6	16	10	3							35	2.7
時 稼、海外發展	3	7	5	1							17	1.4
出稼、海外發展	10	2	1								13	1.0
勉 學 希 望	9	3	1								13	1.0
社會問題に關する希望	4	2	5								11	0.9
宗教問題に關する希望	1	1	2	1							5	0.4
死に對する希望	1	2	1	1	4	2					10	0.8
萬一の僥倖をるもの	5	2	1								9	0.7
天下國家に盡す事	2	1	1								4	0.3
過激主義者	1	3	1								4	0.3
未 定 者	15	2	4	2							24	1.9
無 希 望 者	3	1	3	1							8	0.7
不 明	65	93	94	53	19	6					331	24.7
計	307	370	331	211	63	16					1,300	100.0
分 比	23.6	28.5	25.5	16.2	4.9	1.2					100.0	

第四十表 將來の希望條項細別表

商業家
希望事項
人員數
三五〇

希望事項細別
人員數別
行商
洋品商
小間物商
養鶏業
荒物商
漬物商
酒商
小料理店
茶屋
生糸商
八百屋
菓子屋
靴屋
白米商
運送業
海産物商
魚屋
鐵物商
宿屋
一三六
一三二
一三〇
一
二
一
四
一
一
一
三
一
一

子女の教養又は幸福
生活の安定健康等
一一九
一〇六

薪炭商
餅屋
書籍商
飲食店
一般商賣
小成金(金儲)
其他
子女の成長教養成功
健康を望む
慈善家の救済
歸國(郷里より家出せるもの)
貧民窟を脱したき希望
一日も早く不安な勞働生活を脱したき希望
生活安定の爲め住込奉公をしたい
同上俸給生活をしたい
同上一家を持ちたい
雨降でも平気で生活したい
老後の安樂
一生自由に費へるだけの金が欲しい
人間らしく生活したい
一六七
一一五
一二二
七
二〇三
七五
九
一一九
二
一八
一
一
三
二
一
五
二

労働者として向上したき希望

八〇

一六八

公務自由業

五七

三度三度食べさへすればよい
程よく生きたい
楽な仕事が生きたい
小供の世話になりたい
養育院に入りたい
今少し酒を安く飲みたい
一般に生活安定を得たい
一定の技量を有する職人になりたい
熟練職工になりたい
一定の職に就きたい
自由労働者の親分
永久自由労働生活を望む
労働者として成功したい
交通労働者(自動車運轉手、鐵道、電車従業員)
働いて酒を飲みたい
法律家、辯護士
政治家
總理大臣
外交官
労働大臣

二一 一六 一五 六 一五 二四 八 八 一三 四七 一 一 一 一 七 三

大資本家、大企業家

六八

相當の地位に向上する事

四三

町、村、縣會議員
學者文藝家
技術師
新聞記者
會社員、事務員
醫者其他
官吏
大工場主
鑛山業
ビルプロパー
大工業家
大實業家
日本一の富豪
資本家
一人前の人間になりたい
立身向上
獨立力行
成功歸國
紳士になりたい
知識階級に入りたい

一六九

二 二九 二 五 四 四 一 五 五 一 二 二 五 三 二 一 七 四 二

妻帯家庭を成す事

三五

一五〇

貯蓄

一七

出稼、海外發展

一三

勉學希望

一二

社會問題宗教問題に關する希望

一一

家庭を作りたい

養者が妻に欲しい

美人の嫁が欲しい

故郷に居る嫁と暮したい

夫婦仲よく暮したい

約束通り以前の女は夫婦になりたい

良い夫を持ちたい

歸國して家庭の人になりたい

貯蓄

貯蓄して親を安心させたい

北海道へ出稼したい

海外發展

學問がしたい

専門學校を卒業したい

社會制度の改善

社會事業家になりたい

増進實行

請負制度の改善

天理教佈教師

労働組合運動

一四

一五

一五

一五

一五

一五

一五

一五

一五

一五

一五

一五

一五

一五

一五

一五

一五

一五

一五

死に對する希望

一〇

労働問題研究

人類平等を望む

卒中で一思に死にたい

壘の上で死にたい

善光寺参りして死にたい

並木の肥料になりたい

行倒になりたくない

思ふ様に酒でも飲み良い女でも買つて死にたい

葬儀を盛にして貰ひたい

一日も早く死にたい

眠る様に死にたい

博奕で一儲して妾の一人位持ちたい

博奕の親分

運命を成行に任す

成金

天下に名を擧げて弱者の味方になりたい

國家の爲に盡したい

其他

暴力大革命

共產主義者

萬一の僥倖を希望するもの

九

天下國家に盡す事

四

過激主義者

三

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

一七

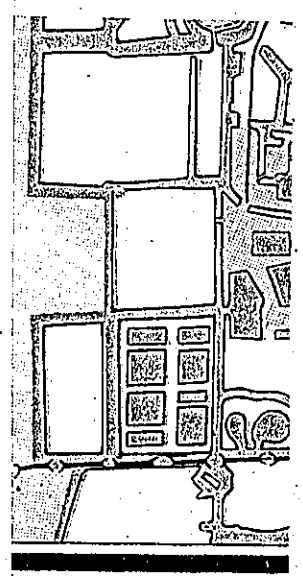
未定
無希望者
不明
計

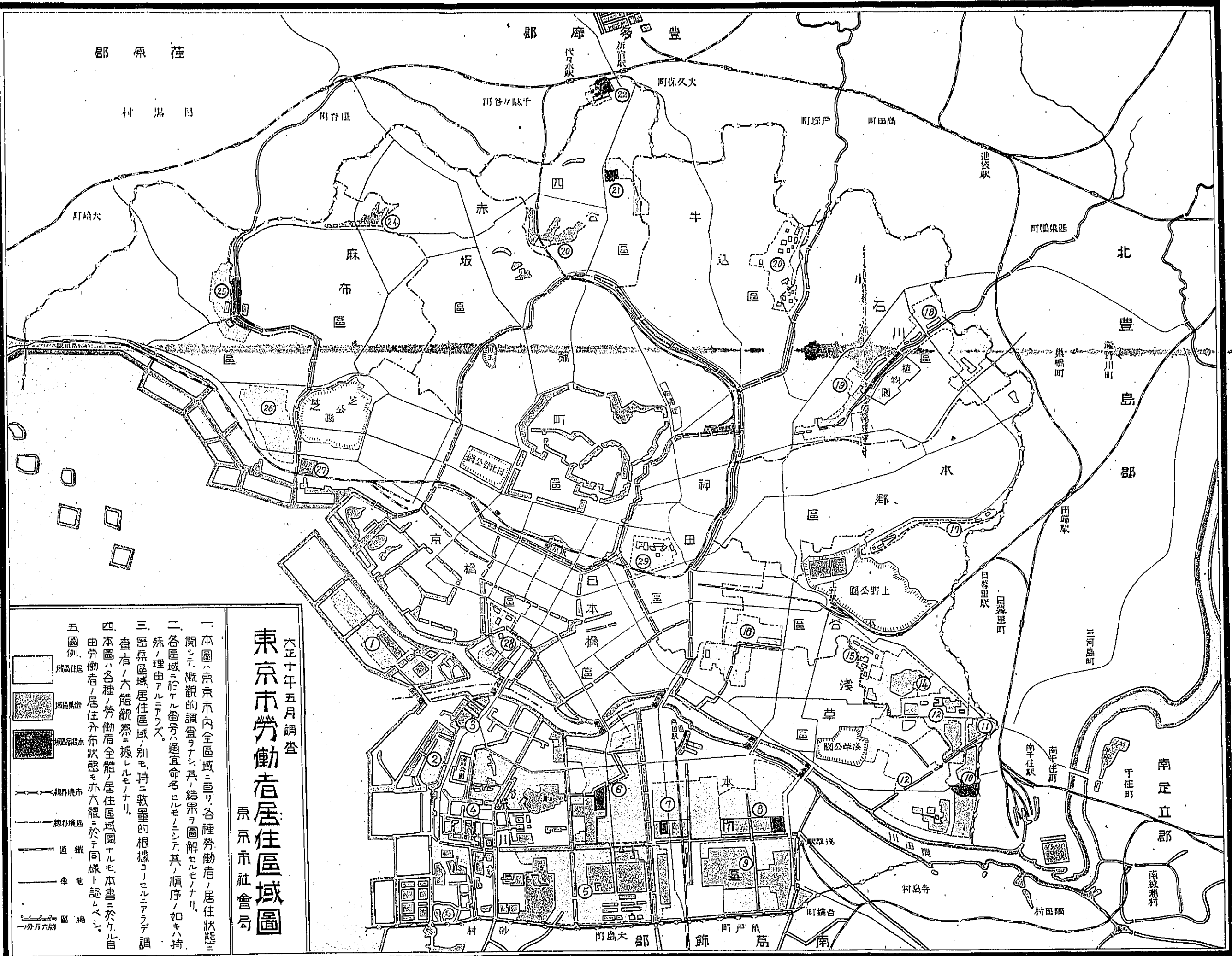
二四
八
三三
一
〇〇〇

テロリスト

一五

二四
八
三三
一
〇〇〇





東京市労働者居住区域圖

大正十年五月調査

東京市社會局

- 一 本圖ハ東京市內全區域ニ亙リ各種労働者ノ居住状態ニ関シテ概観的調査ヲナシ其ノ結果ヲ圖解セルモノナリ
 - 二 各區域ニ於ケル番号ハ適宜命名セルモノニシテ其ノ順序ノ如キハ特殊ノ理由アルニテラズ
 - 三 密集區域居住區域ノ別モ持ニ数量的根據ヨリセルアラデ調査ノ大體觀察ニ據レルモノナリ
 - 四 本圖ハ各種ノ労働者全體ノ居住區域圖ナルモ本書ニ於ケル自由労働者ノ居住分佈状態モ亦大體ニ於テ同様ト認ムベシ
 - 五 圖例
- 労働者居住区域
■ 労働者居住区域
— 線形市界
— 線形区域
— 道 鐵
— 車 電
— 圖 縮
— 分五六約



大正十二年三月

東京市社會局

(非賣品)